

Anne M. R. Agur, Arthur F. Dalley (原著)
坂井建雄 (監訳)
小林 靖, 小林直人, 市村浩一郎, 西井清雅 (訳)

グラント解剖学図譜 第8版

尾崎紀之

金沢大教授・機能解剖学

このたび、原著15版に基づいた『グラント解剖学図譜 第8版』が出版されました。本書は、J. C. B. Grant教授が、自らの手で繊細な解剖を行った解剖標本をもとに忠実に描かれた解剖学図譜がもとになっており、写実性と正確性を特徴とした優れたアトラスです。

写実的なアトラスの有用性は、解剖実習の現場で教えている誰もが感じるところです。解剖学で難解なのは、複雑な形をした臓器や器官の、空間的・立体的配置の会得です。これはいかに丁寧に言葉を尽くしても伝えるのが難しく、また繰り返し文章で読んでも理解することは難しいものです。剖出写真を示したとしても、学生では写真のどこに着目したらよいかわからない場合があります。しかし、構造を理解している人の手によって描き起こされたアトラスの図を見ながら、自らの手で剖出することによって、頭の中でいくら再構築してもわからなかったことが初めてわかる、まさに腑に落ちる経験は、実習を経験した者なら何度もあると思います。

解剖実習において、多くの学生は、それまで見たことがない構造物を、

不安な気持ちを抱きながら剖出します。そのため、正確なアトラスこそが、学生にとって力強い手がかりとなります。また、解剖実習は、必ずしも手順書と同じように進められるわけではありません。ご遺体は、故人の人生を反映し、亡くなってから解剖に付されるまでの経緯がさまざまなことから、実に多様です。そのため、実習の現場では、それぞれのご遺体から学べることを最大限引き出せるように、一体一体、工夫をしながら解剖を進めていきます。そうした際に、応用が利くアトラスは大きな力となります。

標本に忠実で写実的な図譜は、初学者のみならず、臨床医学を学ぶ学生や医師、医療関係者にとっても、安心して、自分が直面している実臨床に役立てると考えます。日常の処置から高度な外科的・内視鏡的アプローチ、MRIやCT画像の理解まで、臨床のさまざまな場面で、正確で写実的なアトラスは、信頼して活用することができます。

最後に、翻訳について触れさせていただきます。初学者の大きな悩みの一つは、成書によって記載が異なる解剖学用語です。解剖学は歴史が

長く、世界中で医学を越えた多分野・多職種で使われる知識の集大成であり、そのため、分野独自の知識も含まれます。多分野の視点は解剖学の発展に寄与してきたところですが、それでも同じ構造に対して複数の用語が使われることは、大きな混乱を招きます。初学者が頭を悩まし、やる気をそがれてしまうかもしれません。本書の監訳にあたられた坂井建雄教授をはじめとした翻訳者は、解剖学用語に造詣が深く、使用する用語を『解剖学用語 改訂13版』（日本解剖学会監修）を中心に、丁寧に選んでおり、学習者が安心して勉強に取り組むことができるのも本書の優れた点です。

本書は、解剖学をひもとく学生から、臨床現場で働く多職種の医療関係者まで、大きな安心と信頼感を与えながら、役立つものと考えています。

●A4変型/頁896/2022年07月

定価：16,500円

(本体15,000円+税10%)

[ISBN978-4-260-04730-2]

医学書院 刊